

大発明家

た く ま

田熊

つね きち

常吉

～ 初の純国産ボイラーを創った男 ～

2022.

9/10 (土) → 10/16 (日)

◆特別講演会

「発明王 田熊常吉の歩みとそのDNAを受け継ぐ株式会社タクマ」

日時 / 9月18日(日) 午後1時30分～ 場所 / 北栄町中央公民館講堂

講師 / 竹口 英樹 氏 (株式会社タクマ 取締役専務執行役員エンジニアリング統轄本部長)

定員 / 30名程度 (電話による事前申込制)

開館時間: 午前9時～午後5時 休館日: 9/12, 9/20, 9/26, 10/3, 10/11 入館無料
(最終入館は午後4時45分)

主催 / 北栄町教育委員会 特別協力 / 株式会社タクマ

北栄みらい伝承館

(北栄町北条歴史民俗資料館)

〒689-2103 鳥取県東伯郡北栄町田井47-1
お問合せ・お申込み TEL 0858-36-4309
HP <http://www.e-hokuei.net/2202.htm>
E-mail: h-rekishie@e-hokuei.net

とっとり県民カレッジ連携講座

搬入付けた「タクマ式汽缶」の前に立つ田熊常吉
「つねきちボイラー(N-580型)」の模型(左上写真)



— 北栄町の人物伝 —

大発明家 田熊 常吉



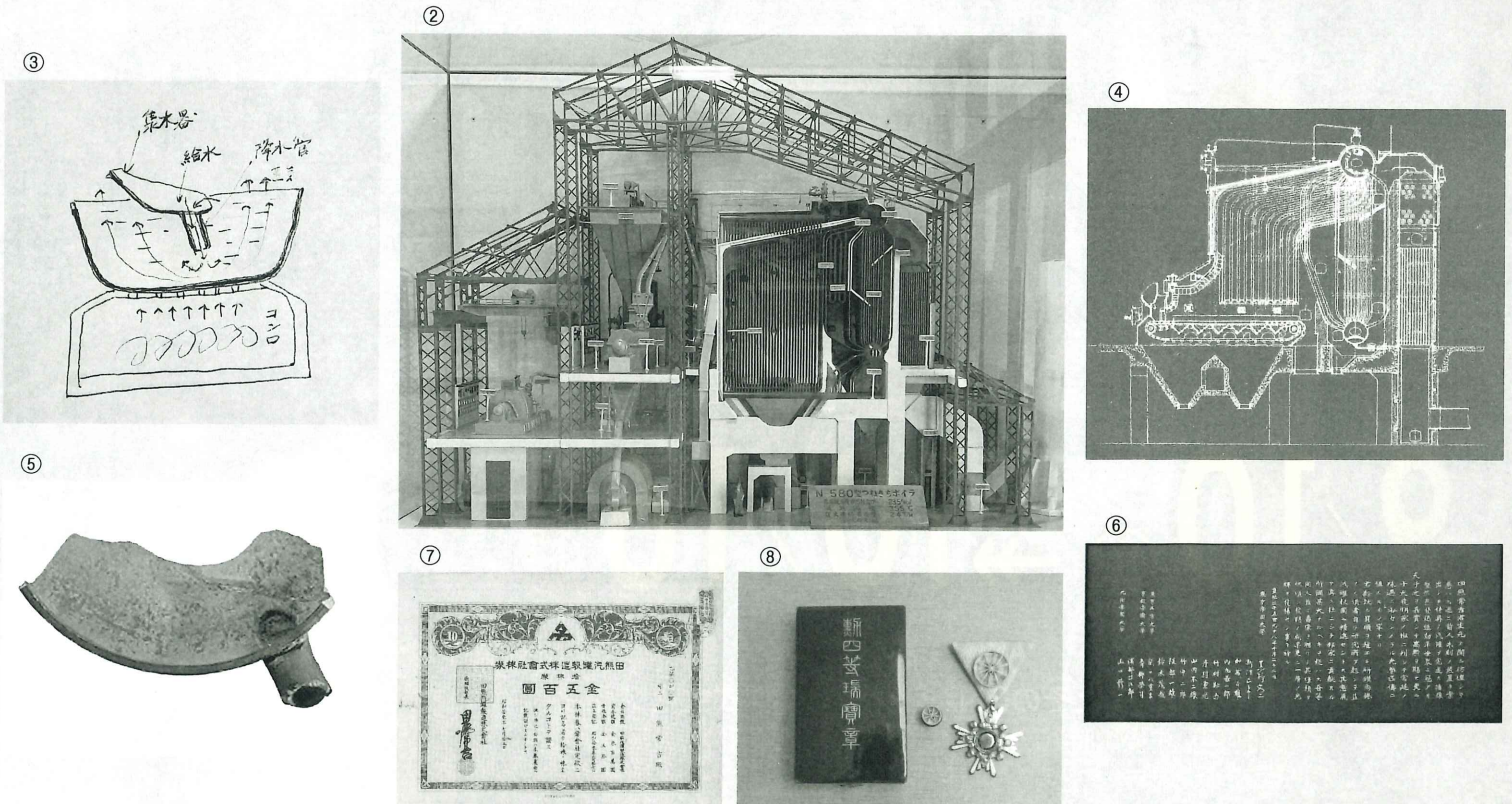
～ 初の純国産ボイラーを創った男 ～

度重なる苦悩を乗り越えて「タクマ式汽罐^{きかん}（汽缶、ボイラー）」を発明し、明治・大正期の十大発明家の一人にも挙げられた、田熊常吉（たくま・つねきち 1872（明治5）年～1953（昭和28）年）。

鳥取県八橋郡東園村（現・北栄町東園）に生まれた常吉は、15歳で京都に出て医者^{いしや}の書生をはじめ、さまざまな職業を経験します。しかし、入った会社が破産したり、自ら経営に乗り出した商売も失敗するなど苦悩を繰り返します。やがて、材木商を営んでいた際に目にした製材用汽缶に強い関心を抱いていた常吉は、40歳にして自らの手で効率の良い汽缶を発明しようと決意します。機械技術の基礎知識を持たない常吉は、貧窮と試練に耐えながら汽缶の研究思索に没頭し、ついに1912（大正元）年「タクマ式汽缶」を誕生させます。汽缶を発明した常吉は、1914（同3）年に開かれた第2回発明品博覧会に実物を出品し、最高金賞を受賞します。1930（昭和5）年12月には、「明治・大正年間の日本10大発明家」の一人として宮中に招かれ午餐を賜ります。そして、1938（同13）年、田熊汽罐製造株式会社（現・株式会社タクマ）を創立し、初代社長となります。

常吉が発明に心魂を傾けた汽缶（ボイラー）は、石炭などの燃焼による熱を効率よく液体に伝えて蒸気を発生させる装置で、発生させた蒸気は熱エネルギーとして蒸気タービン発電、蒸気機関を動かす動力源や、工場等において熱処理や乾燥等の熱源として、さらには一般の冷暖房など、幅広い用途で使用されています。外国技術に頼らず、独自の発想で苦心の末に開発した常吉の汽缶は当時、世界最高の性能を示すに至り、その後も改良を重ね、日本の産業発展を支えました。

本展では、田熊常吉生誕150年を迎えるのを機に、波瀾に満ちたその足跡を辿るとともに、常吉が発明した汽缶（ボイラー）についても紹介します。



- ① 田熊常吉胸像
 - ② つねきちボイラー（N-580型）模型
 - ③ 缶水循環実験スケッチ
 - ④ つねきちN型ボイラー構造図（写真）
 - ⑤ 実験に使ったホーロクの一部
 - ⑥ 田熊常吉顕彰額
 - ⑦ 田熊汽罐製造株式会社創立当時の株券
 - ⑧ 従五位勲四等瑞宝章
- （⑥：東園神社所蔵、その他：株式会社タクマ所蔵）

北栄みらい伝承館

（北栄町北条歴史民俗資料館）

〒689-2103 鳥取県東伯郡北栄町田井47-1

お問合せ・お申込み TEL0858-36-4309

HP <http://www.e-hokuei.net/2022.htm>

E-mail h-rekishi@e-hokuei.net

【次回展覧会予告】 - 鳥取県ミュージアムネットワーク共同企画 -
 生誕100年 吉田たすく展 11月3日（祝）～12月4日（日）
 同時開催：吉田たすくとゆかりの北栄町の作家たち

